



MORIOKA
ROTARY CLUB WEEKLY

第34回例会(3月20日)
平成27年3月27日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10
川徳デパート内
例会場 同上 TEL(651)1111(代)
例会日 毎週全曜日12時30分～

会長 長澤 茂
幹事 植山 桂
会報 古山 明廣
クラブ事務局 TEL(653)5682
FAX(653)5622

Light Up Rotary. 'ロータリーに輝きを' ゲイリー C. K. ホアン



ゲスト卓話

「『ポランの広場』
2014年の活動報告」

岩手県青少年自立支援センター
「ポランの広場」盛岡地区父母の会 会長
島山 節子様

● スピーカー紹介 ●

当法人について改めて紹介
昭和62年 「岩手県不登校を考える父母会」が結成
平成13年 現在の名称で松尾町に開設し現在に至る
平成26年12月・岩手県下7番目の認定NPO法人に認定
活動内容：小中高生の不登校や若者のひきこもりで悩んでいる子供たちや若者、親たちの支援をしています。子を持つ親であれば、誰もがこのようなことで心配したり悩んだりされた方も多いのではないでしょうか。
本日お話し頂く岩手県青少年自立支援センター「ポランの広場」の理事であり、盛岡地区父母会会長でもある島山節子さんは、元岩手医大歯学部准教授で腫瘍細胞を用いて細胞病理学の研究をされていたとのことです。
(青少年奉仕委員長 星 克彦)

1 はじめに

盛岡ロータリークラブ様からの毎年のご支援に深く感謝申し上げます。

また、2月には担当の星克彦さまにポランの広場の見学においでいただき、ありがとうございました。手狭なところですが、家庭的な雰囲気なかでともに過ごすことで、若者たちがエネルギーを蓄えて社会に出ていく機会を待つ居場所の日常を見ていただけたかと思います。

私たちの、岩手県青少年自立支援センター「ポランの広場」が盛岡ロータリークラブ様から助成を受けるようになって、2015年度で8年目になります。変わらないご厚情にお礼申し上げますとともに、年度途中ではありますが2014年4月からの活動についてご報告いたします。

2 ポランの広場の歩み

高度成長期以後の1970年代、受験競争が激しくなった時期と重なって登校拒否・不登校の問題が表面化して、学校に行けない子どもたちが増えました。1980年代後半には、いじめによる子どもの自殺が急増しました。そんな状況の下27年前(1987年)、岩手県内の各地区の

父母会をまとめる組織として、宮古地区の親が中心になり「岩手県不登校を考える父母会」(ポランの広場の旧名)が結成されました。その後、若者のひきこもりが社会的にみられるようになり、学校や職場には行けませんが外出はできる若者たちが過ごせる居場所として、2001年に、盛岡市内の松尾町に「ポランの広場」を開設しました。それ以来、ポランの広場は、不登校・ひきこもりに悩む親子の相談の場として、また家に閉じこもった状態から就労するまでの途中の段階の若者が何もしないでも過ごせる居場所として、その他様々な活動の拠点として今日に至り、現在広く利用されています。2014年12月に、岩手県で7番目の認定NPO法人に認定されました。

3 活動内容

「ポランの広場」は毎週火、金、土曜日に開館し、次のことを活動の主な柱にしています。
(1)不登校・ひきこもりに悩む親子の相談 (2)親の会活動の支援 (3)社会に出るのが困難な若者の居場所「ポランの広場」の開所 (4)若者の会活動の支援 (5)不登校・ひきこもりへの理

解と対応についての学習会や講演会による啓発活動 (6)岩手県内各地区の父母会への情報提供と各地区父母会間の連絡と交流活動

2014年4月からの活動の特徴は第一に、2013年6月にスタートしたななっく相談室が軌道に乗り、新たな相談者の来訪が続いていることです。肴町にある「ななっく」4Fの一隅をお借りして相談ルームをひらき、予約による相談を始めましたが、気楽に立ち寄れるという雰囲気が好評です。

第二に、ホームページを2013年後半に刷新して充実させ、月1回の更新を忘れないで常に新しい活動情報を発信するようにしました。その結果、ホームページを見て、電話予約や直接相談に訪れたという方が、徐々に増えています。

4 相談活動

2014年に出了れた文科省13年調査の結果では(岩手日報2014年10月17日版)、小学校のいじめが2013年度に最多を記録し、中高生では暴力行為や自殺の増加がみられました。岩手県の13年度分の集計で、県発達障害者支援センターにおける7歳から18歳の児童・生徒の相談が、09年度の263件から、13年度は625件に増えていました。このような状況は2014年のポランの広場における不登校の相談件数の増加や相談内容の変化にも表れています。

表1に、2014年に松尾町のポランの「ポランの広場」とななっく相談室(写真1)で行った相談を合計した件数を示しています。2013年に比べて2014年には、不登校の相談が増え、不登校の相談内容に発達障がいに関与するものが多くありました。一方ひきこもりの相談数が2013年に比べて少なく、その他の件数が増えています。2014年では、相談内容が親の離婚や病気による入院など家庭環境の困難さであったり、経済状態が困窮していたり、完全にはひきこもっていないが発達障がいを抱えてい

て精神状態が不安定であったり、単なるひきこもりとして数えることが出来ない相談をその他としましたが、その数が増えています。

表1

平成25年(2013)年度 ()は新規

	来所	電話	合計	相談総数
不登校	30(17)	10(5)	40(22)	
ひきこもり	110(15)	43(2)	153(17)	
その他	15(4)	29(1)	44(5)	237(44)

平成26年(2014)年度(～2/28)

	来所	電話	合計	相談総数
不登校	39(21)	16(4)	55(25)	
ひきこもり	58(7)	31(3)	89(10)	
その他	13(4)	92(1)	105(5)	249(40)

写真1



ななっく相談室には、初めて相談においでになる方が続いています。バスセンターに近い利便性と買い物しながらさりげなく相談コーナーに行けるので敷居が低いなどの理由が考えられます。口コミやホームページをみて、八幡平市や二戸など遠方から来られる方もいますので、潜在的に子どもの不登校やひきこもりに悩んでいる方が県内にかかなりいると実感されます。一昨年8月末に大幅に改訂したホームページの効果が大きいということも感じています。ホームページから情報を発信することの大切さを痛感しています。

5 居場所として

ポランの広場の2014年4月から2015年2月末までの開所日数は121日で、通ってきた若者の数はのべ612人で1日に平均5人で、2013年とほぼ同じでした。ポランが開かれる日には毎回10時に来て午後4時までポランで過ごす若者が2・3人いる一方で、土曜日の午後だけ来る若者、時々ぼつとやってくる若者などいろいろです。仕事に就いている若者でも、元気がないときにはポランに来るんですという人もいます。

1か月に1回“絵本でほっこり・ゆっくり”の絵本の読み聞かせを開いていて、盛岡在住の渡部ミラさんが読んでくれるのですが、その時間に合わせてくる若者もいます。絵本は、幼児だけでなく大人が読んで、子ども時代とはまた違った意味でいいのだそうですが、若者にも良い効果があると感じています。特に元気がないときに、ゆっくりした気持ちで聞くと、心が落ち着きます。

6 若者の会行事

若者たちは隔月1回ポランを飛び出し、行事を行っています。2014年度は、4月のお花見会、6月御所湖でバーベキューとスポーツ、10月には“森のつどい”でポランの広場に宮古の若者たちを迎えて交流し、その後小岩井農場で遊びました。12月にクリスマス会にはポランの広場で餃子を作り餃子パーティーを楽しみました。若者の会の行事は好評で毎回約15～20名が参加者します。居場所には来ることができないけれど、行事を楽しみにして行事にだけ参加する若者が何人かいます。かつてはポランに通ってきた若者で、今は立派に働いている先輩がキーキ持参で参加してくれたり、オーストラリア在住の方が毎年クリスマスのお菓子類を送ってくれたり、ポランの若者の活動はみんなに支えられています。

また、12年目になりますが、2015年2月に盛岡市在住のピアニスト、大浪真知子さんがマネージメントして「ふれ愛チャリティーコンサート」を開いてくださいました。チェロ奏者 邢広京さん（山形交響楽団）とピアニスト 斎藤葉子さん（羽場学園短期大学教授）も遠方からおいでになり、私たちは素晴らしい生演奏を堪能しました。いただいた募金をポランの広場へ全額寄付していただきます。当日は若者たちが準備をします。居場所での若者同士やこのような様々な人々との交流の積み重ねが若者を成長させてくれます。

7 ひまわりプロジェクト参加

ポランの広場は「ひまわりプロジェクト」に、2014年も参加しました。東日本大震災後、福島が放射能汚染されたため、ひまわり栽培ができなくなって、ひまわり油を絞れなくなったことから、福島の障がい者施設「シャローム」がDCI日本支部と共同で始めたプロジェクトですが、ポランの広場の参加は3年目になります。ひまわりの種を送ってもらい、玉山区日戸の畑に約600本の種を蒔き、秋に花を刈り取り、種をとりました。種まきからの一連の作業は、ポランの広場の若者と親とスタッフでやり、最後の種を選別し終えたときは感無量でした。今年は10kgほどの収穫量を送り、12月にひまわり油となって届けられました。

このプロジェクトでは、ひまわり油の販売利益が、福島の子もたちが夏の間放射能の高い福島からはなれて北海道などで過ごす保養プログラムの経費につかわれます。自分たちもいろいろな方からの支援をうけていますが、一方で他人の役に立つことができるという活動が若者の自己肯定感をそだててと思っています。

8 岩手のつどい in 気仙

岩手県内には10地区(盛岡、北上、胆江、一関、釜石、遠野、宮古、久慈、二戸、気仙)に親の会が作られていて、それぞれ独自に親同士の交流のための定例会を開いて活動しています。毎年、県内の父母と支援者そして当事者が集まって交流する“岩手のつどい”を開いていますが、今年“岩手のつどい in 気仙”(11月9日、大船渡市)が開かれました。分科会Aとして、“被災地の子どもたち”を設けられました。ここでは、落ち着きがなく、椅子を壊すなどの乱暴をしてしまう、被災地の子どもたちの荒れた心が見えるような様子が語られました。陸前高田市、大船渡市、住田町など気仙地区の方の参加が多く、沿岸地区でこのような交流会が待たれていたことを知りました。県内全域から、親、当事者、支援者らが集まり92名が参加しました。

午後に横湯園子さん(元中央大学教授、臨床心理士)が「絶望をくぐり抜け、支え合うものとして」一子ども、青年と大人がともに生きる道を一という題で、生きていることを大事にして生きていこう!と語りました。

9 その他の活動

- (1) 県内の各地区父母会の情報交流センターとして、「ポランの広場通信」の毎月発行と「ポランの広場だより」の年1回発行、
- (2) 5月の総会終了後に行われた、大森サツ子さん(秋田、みんなの家主宰)特別講演。

— 私たちの活動を支えてくださっている盛岡ロータリークラブの皆様のご理解とご支援に深く感謝申し上げます。 —

例 会 報 告

第34回例会 平成27年3月20日(金)

- 於 川徳 12時30分 開会点鐘
- ・司 会 長澤 茂会長
- ・ソング それでこそロータリー
- ・ゲスト 畠山節子様(岩手県青少年自立センター ポランの広場 理事 盛岡地区父母の会 会長)

- ・会長報告 長澤 茂会長
- ・幹事報告 樋山 桂幹事

【他クラブ例会変更のお知らせ】

- 盛岡南R.C.=3月31日(火)は、通常夜例会18:30~[盛岡居酒屋 遊食屋 FUJII] 会場変更。

【ニコニコBOX】

- ◆長澤 茂君…3月17日カルタ取り

がありました。次年度がみえてきたようなので、ニコニコします。

●メークアップ

盛岡北R.C.=江口・勝・川床(登)・大見山・白石・吉原君。
盛岡滝ノ沢R.C.=橋本・平井・金子・荻野君。クラブ委員会=千葉・藤村(文)・菊池・佐藤(重)君。

出席報告 ■ 会員数 / 73 名 ■ 出席数 / 42 名 ■ 出席率 / 61.76% ■ 前々回修正出席率 / 80.00%

プログラムの お知らせ

- ・3月27日(金) ゲスト卓話 中村光紀様(萬鉄五郎記念美術館 館長)
「萬鉄五郎の「裸体美人」について」
- ・4月 3日(金) 新入会員卓話 堺田幸志会員
- 10日(金) ゲスト卓話 金田玲子様(style-R 代表)
- 19日(日) 地区大会(17日例会変更)
- 23日(木) 観桜会(24日例会変更)

- 本号編集担当 / 古山 明廣
- 次号編集担当 / 竹中 陽一